

# 社会福祉法人みんなのうちに 中期計画

第3期（令和3年度～令和5年度）

## I 目標

設立以来の「理念」が明確になってきていることから、その方向を内外により示していく事で、子ども・保護者にも、保育従事者にも「選ばれる保育園」をテーマとする。その為に、強みや方向性の発信の強化を図る。合わせて「小梅保育園ブランド」のブランディングの強化に取り組んでいく。

第2期の運営を通じて、通常の保育園運営のベースは確立してきていることから、これを土台に中期的には、複数園の運営が可能となるよう、人材育成を最重要課題と位置づけ、ここに法人の資源を集める。また、人材の確保の観点からも職員を定数以上に採用する。財務的には若干厳しくなる部分もあるが、複数園運営も見通して人材の確保育成に努める。

将来を担う子ども達の過ごす保育園として、将来についても一定の責務を負うという意識のもと、SDGsを意識した保育及び保育園運営を心掛ける。

保育園の運営は基本的には公的資金による補助金が多くを占める。これは財政的に安定的である反面、児童の状況に左右されるという側面もある為、法人として運営の趣旨に沿った範囲内で収益事業の検討を始める。

### 小梅保育園 保育目標

#### げんきなところとげんきなからだをつくる

- ・自分らしく過ごす中で、自分を信じ、何事にも懸命に取り組み、やり通すことの出来る子ども
- ・社会性・協調性を身につけ、受容する心を持って全てに接することの出来る子ども
- ・命の大切さを尊び、成長していく喜びを感じることの出来る子ども

## II 中長期計画の内容

### 1 小梅保育園の安定運営の確立

引き続き、保育所として、保育指針の求めるものと法人の保育目標を押さえた全体計画に基づき保育を実施することで、安定的かつ適切な園運営を行っていく。また、その為の人材育成に注力していく。

#### 保育計画に則った保育の実施

第2期から引き続き、保育目標の実現に向けて、新規に作成した保育支援計画（全体計画）保育者のしおりを活用し、保育計画の立案を行い実施すると共に年間カリキュラムにカリキュラムマネジメントの手法を用い、柔軟性を持つ

た計画としていく。特に経験の浅い職員が多いことから、円滑な保育に直結するような人材育成を図っていく。

#### 1年目

\* 勉強会や観察実習を積極的に行い、園の理念、目指す方向に則った保育となるように保育実務を通じて、管理職・リーダー層・中堅・若手・新人、それぞれに人材育成を図っていく。

#### 2年目

\*引き続き、人材育成に取り組んでいく中で、初年度の結果を踏まえ、課題を抽出した上で、修正を行うと共に、更に高いレベルでの定着を図る。

#### 3年目

\*保育の計画に基づいた保育の実践とそれを着実に担うことが出来る人材とによって、複数園の運営が可能となるような、人材の基礎を確立させる。

### (2) 組織の見直し

#### 1年目

・園長は法人運営・人事・労務・財務を主に担当し、保育実務については副園長・副主任を中心に回していけるような体制作りを行う。

#### 2年目

・新園構想を模索し、リーダーをとりうる人材を複数人育成する。  
・若手職員が自分で考え、実行できる組織を構築する。

#### 3年目

・1～2年目を踏まえての職員体制の再検証を行う。

### (3) 施設設備

#### 1年目

・必要な部分について修繕を行う。  
・目指す保育に見合った保育用品の充実を図る。  
・旧園舎にも通信環境を整える。

#### 2年目

・共同募金の補助金や多摩産材の活用など通じて、高額な備品の購入を図る。

## 2 人事労務・給与制度

### (1)人事労務・給与制度の職員への浸透

働きやすい福祉の職場宣言を更新すると共に、職員にも職場環境の充実度が実感できるようにしていく。

### (2)福利厚生制度の充実

職員のモチベーションおよび職員の質の向上を図るため、120日の休日確保、有給休暇の取得促進等、福利厚生制度の充実を図っていく。また、最終年には、状況を勘案しながら給与規程の水準について検証を行う。

**1～2年目** 福利厚生制度の充実

**3年目** 給与規程の検証

## 3 経営基盤の確立

サービスの稼働率を高めることにより多く地域利用者のニーズに応える中で経営基盤の更なる確立を図る。複数園運営のノウハウの獲得に努める。

### 利用稼働率の向上

小梅保育園 目標入所率（月極）

**1～3年目** 95～100%

\* 第一志望入所希望率の向上を目指す。

### 収益事業の検討

子育て支援の一環として、家庭での給食提供といった保育園の資源を活用した事業を検討する。

## 4 地域ニーズの把握

墨田区の就学前人口を踏まえた上で、社会福祉法人の使命として、地域のニーズを検証した上で、新規保育所の新設の可能性を探る。併せて、現在実施している事業（地域事業・相談事業・実習生受け入れ事業等）の拡充を図っていく。

**1～年目**

地元自治会との連携

関係事業者、機関、団体との定期的な意見交換

小梅保育園のブランディング計画検討

保育園開設の可能性を探る。

保育園としてSDGsに関してどんなことが出来るか検討する。

## 2年目

新規保育園の検討を図る。

新規地域支援事業を検討する。

小梅保育園のブランディングを実施

SDG に関する取り組みを具体的に実施する。

## 3年目

小梅保育園ブランドを確立する。